

～点から線へ、線から面へ防災の意識を広げよう～

安心・安全に暮らせる志々人づくり事業

飯南町 志々公民館

1 志々地区の概要

志々地区は飯南町の北西に位置し、出雲市佐田町と大田市三瓶町に隣接した人口 500 人、高齢化比率 50%の小さな地域である。

志々公民館エリアには、保育所と小学校があり、子ども達は、仲良く元気に学んでいる。地域の中心には神戸川が流れ、志津見ダムへとつながっている。周りを緑に囲まれた自然環境の良い地域である。

少子高齢化は否めない事実であるが、小地域活動は比較的盛んで、公民館活動への参加者も多い。そして、私たちの誇れるものの一つにボランティア人口の多さがある。中でも 4 年前から月 2 回実施している「陽サロ 2 号店」は、子どもから高齢者までが交流できる場として、毎回 50 人の住民が訪れる。また、このサロンは保育所の自主的な利用もあり、月 1 回は地域昼食として園児たちも訪れる。低年齢の子ども達にとっても大人気のサロンである。住民にとっては交流の場として、保健師や包括ケア担当者や社協にとっては、お茶を飲みながら生活状況・健康状態・困りごとなどを聞ける空間となっている。その他に毎月 1 回、「声がけ訪問隊」が 85 世帯の高齢者や生活支援の必要な世帯に二人一組で声がけ訪問を行うことで、地域に寄り添っている。陽サロ 2 号店の賄い、声がけ訪問隊は、ボランティア登録者約 60 人に支えられている。この地域では「支えられる人」も「支える人」もともにボランティアという意識で活動に参加している。

2 事業の趣旨

「点から線への人づくり」

～過疎化は否めない事実であるが「心の過疎化」を進行させない地域づくりを目指す～

これまでの公民館活動や小地域活動を基底に、誇りであるボランティア人口の多さを武器として、防災をテーマに「陽サロ 2 号店ボランティア」「声がけ訪問隊ボランティア」「志々自主防災組織」が連携できるようにする。この 3 つの活動が連携することによって、地域住民の関わりが、点から線に、線から面へと広がる。そして、一人一人が笑顔で「安心・安全に暮らせる志々地区」として、縦にも横にもネットワークが広がるものと考ええる。

3 具体的な取組内容

(1)線から面への人づくり

ア「安心・安全に暮らせる志々の人づくり事業」推進会議の開催

多くの関係者による合同会議の開催。自主防災組織(自治会長、消防団、各地区から選出された委員)、民生児童委員、自治会女性部、未来会議(若者、保護者世代)、公民館運営協議会委員等が出席し、安心情報キットの内容や配布方法の検討、災害時・緊急時の支援体制等についてグループワークを行った。

イ わらべの学校における防災教育の実施
小学生を対象とした事業「わらべの学校」の通学合宿において、社会福祉協議会の協力を得て、子どもたちへの防災教育を実施した。その際、防災食の調理・試食や防災テントに就寝するなどの体験を実施した。

(2)安心情報キットの配布

このキットは防災情報カードと防災リュックをセットにして、全家庭(カードは全世帯構成員)に配布した。個人で書くことが困難な高齢家庭等には、声がけ訪問隊が事前

に支援の必要について聞き取りを行い、公民館職員がカードへの記入を支援した。

(3)防災訓練の振り返り・防災講演会の実施

ア 6月2日に実施された飯南町防災訓練のとき住民から出た課題について、町からの説明を受け解決策を考え共有した。

イ 独自の避難訓練の実施。今年度はさつき会館利用時における通報訓練と避難訓練を実施した。

ウ 住民を対象に、防災情報カードについて周知するための啓発劇を実施した。

エ、具体的に学ぶ場として広島県庄原市より講師を招いて防災講演会を実施した。



子どもの防災教育



グループワーク



検討事項の共有



啓発劇



防災講演会の実施

4 評価と成果

(1)自主防災組織の中でのつながり

これまで志々地区では、住みよい地域創造事業、小さな拠点づくり事業における安心安全な地域づくり(サロン事業、声かけ訪問活動、自主防災組織づくり等)を推進してきた。今回、地域課題解決型公民館支援事業を活用し、社会教育を基盤にすること

で、各種団体やボランティアが「集い、学び、つながる」ことができた。話合いの輪が広がることによって、より多くの意見や課題が共有され、地域で防災に取り組む意欲が醸成された。

(2)声かけ訪問隊の新たな役割による、意識の向上

毎月1回、二人一組で行う声かけ訪問隊は、公民館で作成したチラシを持参しつつ、訪問先の状況把握に努めている。問題や相談が必要なことが発生した場合は、まず公民館に報告され、公民館が関係機関につなぐようにしている。

今回、この事業の取組の一つとして、防災情報カードへの記入や活用についての聞き取り作業を担ってもらった。ことによって、防災という新たなつながりが生まれた。また、活動の意識向上と多様な支援体制ができた。

5 今後の課題と見通し

今回の事業を通して、安心情報キットの配布と防災情報カードの記入支援等で、地域の防災に対する関心を高めることができた。この高まりを維持していくためには、地域から家庭への啓発を図ることが課題である。そこで、大人の意識を向上するために、今後は子どもたちへの防災教育の推進も図りたい。

防災意識の向上は、単年での取組では成果が上がらない。そればかりか、意識自体は時間と共に後退していく。重ねて「継続的に取り組むことによって安心・安全な地域づくりにつながる」ことを公民館活動の柱の中に位置づけ、地域の課題を解決するための人材の育成に取り組むことが必要である。

(文責: 館長 伊藤志津江)